

家族経営の強みが育む良質乳生産、安定経営！

～西置賜農業を支える生乳の匠たくみ～

大木 光明・豊美（白鷹町）

1 受賞者の概要

両氏は、酪農経営においてその原点に立ち返り、家族経営のメリットを限りなく追求。

生乳の高品質化による乳価向上、後継牛の確保、自給飼料生産の拡大、生産コストの削減等に積極的に取り組み、搾乳牛約 40 頭で本県トップランナーとなる農業所得を実現している。



親子三代酪農に励む大木家（左から光明・豊美氏）

2 活動内容

（1）生乳の高品質化を推進！ 「マイスターミルクカー」へのチャレンジ

全組合員 90 名以上中、年間 2～3 人しか認定されない非常に厳しい乳質基準の「マイスターミルクカー」認定を平成 20 年と 27 年の 2 回受けるなど、常に品質の高い生乳生産に取り組んでいる。

（2）安全・安心を発信！ 山酪 HACCP（ハセツプ）認証農場

山酪 HACCP の最高ランク（合計得点 90 点以上）の「ゴールド認証」を平成 25 年から 28 年まで 4 年連続で受けている。

（3）個体管理の徹底による安定経営

毎日全乳房をチェックし、高品質な乳質維持に努めている。その結果、基準価格に対し約 7 円/kg 高の単価向上を実現しており、家族経営に見合った適正頭数で本県トップランナーとなる所得を確保している。

（4）耕畜連携による自給飼料確保の取組み

自給飼料確保のため、所有地のほか河川敷や、地域内農地を借り受けて団地化し、青刈りとうもろこしや牧草を栽培。耕畜連携を進め、これら圃場に大木家の堆肥を散布還元し生産性を高め、良質な粗飼料を生産することで、必要な粗飼料全体の 6～7 割程度を自給しており、飼料コスト低減を図るとともに、遊休農地の解消にも貢献している。

3 今後の発展方向

現在、大木家では業務を分担し、光明氏と長男康博氏が搾乳や給餌を、豊美氏が後継牛となる子牛の哺乳・育成及び経理、父の俊雄氏が堆肥処理や給餌を担当している。

現状の経営規模を維持しながら、各自が役割を持って家族経営を継続したいと願っているが、今後は長男に経営を引き継ぎ、しっかりと白鷹の農地を守り、美味しくより高品質な生乳生産を行う酪農経営をめざしていく。